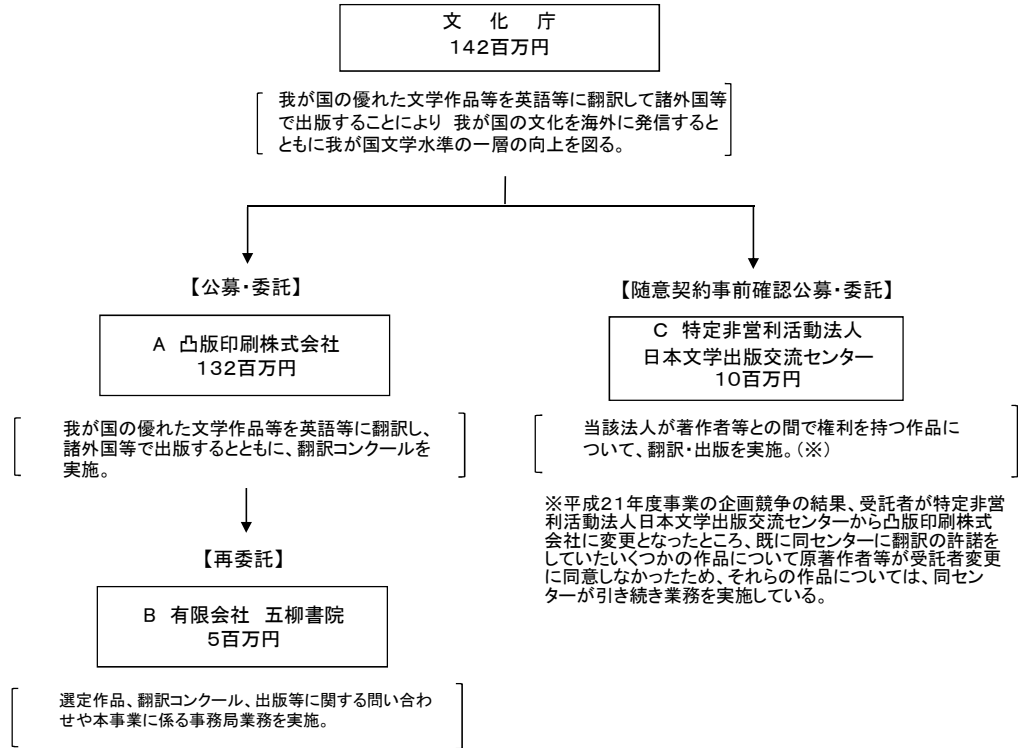


平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	現代日本文学翻訳・普及事業		担当部局庁	文化庁		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成14年度～平成27年度		担当課室	文化部芸術文化課		芸術文化課長 舟橋 徹	
会計区分	一般会計		政策・施策名	XⅢ 文化による心豊かな社会の実現 XⅢ-3 日本文化の発信及び国際文化交流の推進			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	文化芸術振興基本法 第15条 文字・活字文化振興法 第9条		関係する計画、通知等	文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針) (平成23年2月8日閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国の優れた文学作品等を英語等に翻訳して諸外国において出版・普及を図り、あわせて優れた翻訳者を育成することにより、我が国の文化を海外に発信し、国際社会における諸外国との相互理解を促進するとともに、我が国文学水準の一層の向上を図ることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	上記の目的に資するため以下の事業を実施。 ・翻訳事業(事業開始年度:平成14年度) 我が国の優れた現代日本文学等を海外に発信するため、外部有識者による委員会を設置し作品を選定し、翻訳・出版。 ・交流普及事業(事業開始年度:平成14年度) 各国の大学・図書館や文化機関等へ翻訳作品を寄贈することにより、海外において我が国の文学に触れる機会を提供。 ・翻訳者育成事業(事業開始年度:平成21年度) 優れた翻訳者を養成するため翻訳者コンクールを行い優れた翻訳者を顕彰し、発掘した優れた翻訳者を育成することにより、我が国の文学を海外に発信できる土壌を醸成。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
		補正予算	—	—	—	—	—
		繰越し等	—	—	—	—	—
		計	173	173	148	72	72
	執行額	167	163	142	—	—	
執行率(%)	96.5%	94.4%	95.9%	—	—		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値(年度)
	我が国の文化の海外発信や諸外国との相互理解の促進について、定量的な成果指標を設定するのは困難であるが、参考実績は以下のとおり。 【参考実績1】これまで出版された作品のうち、山田太一著「異人たちの夏」、川上弘美著「真鶴」は販売部数が2万部を、「芥川龍之介短編集」は1万部を超えている。また、海外の大学、図書館等への寄贈は、英語版、ドイツ語版、フランス語版、ロシア語版合計でのべ約2200機関に送付しており、平成24年度は英語版、ドイツ語版、フランス語版計14,648部送付している。 【参考実績2】昨年5月に第1回翻訳コンクールの受賞者を決定したが、優れた翻訳者の育成が必要とされる中、文芸作品の翻訳経験のない応募者の中から、翻訳者として活躍できるレベルにある者を発掘した(最優秀賞2名。イギリス人とドイツ人)	成果実績	【参考実績】寄贈冊数	505	13,990	14,648	—
		達成度	%	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	翻訳・出版を終了し、買上を行った作品数(言語毎)		活動実績(当初見込み)	作品	12	25 ( 24 )	30 ( 14 )
単位当たりコスト	2.2(百万円/1翻訳作品あたり)		算出根拠	平成24年度執行額 142百万円/65作品(翻訳済みで出版・買上が終了していない作品数)			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	文化芸術振興委託費	72百万円	72百万円				
	計	72百万円	72百万円				

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国 必 要 投 入 の 要 素		広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	・文字・活字文化振興法の規定により、優れた現代日本文学の外国語への翻訳を支援する事業は、国の責務として実施する必要がある。		
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	・一部の作家の作品に偏らず多様な優れた現代日本文学を選定して翻訳・出版する事業、海外での普及を進めるため出版と併せて寄贈を行う事業、優れた翻訳家を育成する事業を一体として実施しており、国でしか実施できない事業と考えられる。		
		明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	—			
事 業 の 効 率 性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・支出先(委託者)の選定は、競争性を確保するため、公募による企画競争により実施し、応募があった者について、外部有識者等で構成する選定委員会の厳正な審査により決定している。		
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○	・単位あたりのコストを削減するため、翻訳作品の寄贈先の見直し等を実施するとともに、上記の選定委員会において、費目・用途の適正性についても合わせて評価している。		
		単位当たりコストの水準は妥当か。	○	・出版にあたっては、出版社が出版しなければならない最低部数を予め定めており、国による買上以上の部数や、最低出版部数を上回る部数の出版については、出版社の責任により行われることとなる。		
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	・なお、選定作品、翻訳コンクール、出版等に関する問い合わせや事業に係る事務局業務を効果的・効率的に実施するため再委託を認めている。		
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○			
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—			
事 業 の 有 効 性		事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	・翻訳作品の選定は、外部の専門家からなる「企画委員会」を設置し、海外の研究者等に委嘱する海外委員の意見も踏まえ、特定の作家や分野に偏らないよう配慮しつつ実施している。また、Webページの制作や、海外のブックフェアへの出展等を通じて海外での出版機会の充実を図るとともに、国で買上げた作品を寄贈し、海外での普及を推進しており、実効性の高い事業スキームとなっている。		
		活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	・活動見込みは、前年度の進捗状況を踏まえ、翻訳・出版を完了して買上を行える見込み数を設定している。平成24年度は、買上見込数14作品に対し実績30作品となっている。		
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○			
重 複 排 除		類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—			
		事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
点 検 結 果	<p>文字・活字文化振興法の趣旨に鑑みて、一部の作家に偏らず多様で優れた現代日本文学を海外に紹介することは国の責務である。また、翻訳された作品を出版・寄贈することにより相互理解の促進を図るとともに、我が国の文学を海外に発信できる土壌を醸成する翻訳家を育成する事業を一体として実施し得るのは国以外にはない。執行についても、事業の見直しを行い経費の削減を図っていることから、引き続き本事業を実施する。</p> <p>なお、本事業については、昨年度の行政事業レビュー(公開プロセス)の廃止という評価結果を踏まえ、平成27年度を目処に事業を終了する予定である。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
抜 本 業 的 全 改 善 の 要 素	<p>1. 事業評価の観点:本事業は、日本の現代文学の翻訳及び諸外国における出版を行う委託事業であり、長期継続事業の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見:本事業は平成14年度から実施しているが、平成24年度実施の行政事業レビュー(公開プロセス)において廃止とされているところ。昨年度の所見も踏まえ段階的廃止に向けて、翻訳済の未出版作品について出版・寄贈等の計画的な進捗に努めるべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
段 階 的 廃 止	本事業については、既に翻訳済の作品の出版・寄贈等を今後3年間で終了させる計画であり、着実な計画の遂行に努めていく所存である。					
備考						
<p>○公開プロセス対象事業            年度:平成24年度            レビューシート番号:0435            事業名:現代日本文学翻訳・普及事業            公開プロセスの際の「結果」:廃止            「とりまとめコメント」:            本事業については「廃止」3名「抜本的改善」3名との結果を踏まえ「廃止」という結論とし、以下の2点のコメントを付すこととする。            ① 海外に日本文学を発信するためには翻訳は極めて重要であるが、日本文化の発信を国がどのように取り組むべきかの戦略を踏まえ、民間の活動に委ねるべきところは委ねるべき。            なお、既に国費を投じて翻訳済みの未出版作品については、翻訳作業を納期内に完了させるなど執行の在り方に留意しつつ、期間を区切った上で一定の配慮について検討すべき。            ② 優秀な翻訳者を発掘・育成することは、国の事業としては重要であり、効果的・効果的な支援の方策を検討すべき。</p> <p>○文化庁HPIにおける本事業のURL  <a href="http://www.bunka.go.jp/geijutsu_bunka/07kokusaikoryu/bungaku_honyaku.html">http://www.bunka.go.jp/geijutsu_bunka/07kokusaikoryu/bungaku_honyaku.html</a></p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0489	平成23年	0410	平成24年	0435

※平成24年度実績を記入。



**資金の流れ**  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位：百万  
円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A.凸版印刷株式会社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	翻訳・照合・編集・監修作業費、出版社交渉費、WEBサイト製作・運営費、作品買上費等	90			
通信運搬費	買上書籍梱包・発送費等	23			
人件費	翻訳出版事業等従事者	6			
再委託費	事務局運営費	5			
その他	旅費、消費税相当額など	1			
一般管理費	再委託費を除く上記経費合計の10%	12			
計	上記の経費のうち右記の金額を支出	132	計		0
B.有限会社五柳書院			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	海外ブックフェア出張旅費	2			
借損料	事務局借料	1			
その他	通信運搬費、海外ブックフェア参加費等	2			
計		5	計		0
C.特定非営利活動法人日本文学出版交流センター			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
図書購入費	寄贈図書買上費	5			
諸謝金	翻訳謝金、著作権管理謝金等	4			
その他	通信運搬費、消費税相当額等	1			
計		10	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	凸版印刷株式会社	我が国の優れた文学作品等を英語等に翻訳し、諸外国等で出版するとともに、翻訳コンクールを実施。	132	企画競争	—

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	有限会社 五柳書院	本事業に係る事務局業務を実施。	5	—	—

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	特定非営利活動法人日本文学出版交流センター	当該法人が著作者等との間で権利を持つ作品について、翻訳・出版を実施。	10	随意契約事前確認公募	—